

会派行政視察報告書

周南市議会議長 長嶺 敏昭 殿

令和5年8月8日

周南市議会 公明党会派代表 金子 優子

遠藤 伸一

小池 一正

令和5年7月26日(水)から7月28日(金)迄、会派公明党で下記内容の調査に
兵庫県丹波市・愛知県常滑市・静岡県富士宮市に出張を致しましたので、その
概要と所感を報告する。

—記—

1. 日時 令和5年7月26日(水)から7月28日(金) 2泊3日

視察先 7月26日(水) 兵庫県丹波市

7月27日(木) 愛知県常滑市

7月28日(金) 静岡県富士宮市

2. 出張者 金子 優子、遠藤 伸一、小池 一正

3. 内容

・丹波市 ふるさと定住促進事業について

・常滑市 BOAT KIDS PARK Mooovi、グリーンとこなめ等施設の視察

・富士宮市 認知症対策の取組について ※日程詳細～別紙報告書及び添付資料のとおり

【周南市議会公明党】会派視察報告書

報告者 小池 一正

丹波市役所 議事堂第3委員会室 7月26日(水) 13時00分～14時30分

【対応説明者】 ふるさと創造部 ふるさと定住促進課

定住促進課係長

【調査事項】 ふるさと定住促進事業について

【所感】丹波市では、平成20年代前半から、空き家の利活用と移住支援を一体的に取り組、良好な空き家の確保、移住につなげる方向性を持った移住相談のワンストップ化を図った結果、相談件数/移住実績は共に増加し、良好空き家も順調にマッチングしている。注目する点は、地方創生推進プロジェクトを立ち上げ、丹波市の移住促進策をまとめた「ふるさと移住促進方針」策定をした庁内体制である。ふるさと創造部長を座長に各関係課長による分野横断的な庁内会議を設置し、令和3年5月から令和2年度の転入出者アンケート調査の分析・ふるさと定住促進方針案・各施策取組の検討を重ね、市議会中間報告を経て、令和4年2月最終策定に至った所。また事業の運営管理は、丹波市移住相談有限責任事業組合に委託している点で、委託先では、現在30代の移住定住経験者が相談員で窓口対応している。ポータルサイト HP 等運営も全て、一括して行われている。丹波市の立地条件は*災害に強い、観光地・都会へ通勤は、約1時間と利便性に違いはあるが、本市でも施策の提案すべき内容はあると感じた。

【周南市議会公明党】会派視察報告書

報告者 小池 一正

ボートレースとこなめ 特別観覧施設「ROKU とこなめ」

7月27日(木)10時30分～13時00分

【対応説明者】 常滑市モーターボート競走事業 管理者 [REDACTED]

常滑市ボートレース事業局 次長 [REDACTED] 経営企画課長 [REDACTED]

【調査事項】

BOAT KIDS PARK Mooovi とこなめとコミュニティパーク Gruun とこなめ等施設の視察

【所感】 一般財団法人 BOATRACE 振興会が推進する、ボートレース場のパーク化の一環である子供の遊び場整備の概要説明を受けた。1日平均来場者数は、コロナ禍でも1100人を超え、今後も推移する傾向にある。ボートキッズパーク Mooovi/コミュニティパーク Gruun 施設整備の事業費は、2施設とも一般財団法人 BOATRACE 振興会の支援金(上限付)で建設され、当該施設は、パーク化事業の先駆けであった為計画は、スムーズに遂行した。施設の設置に関する市民、利用者の反響は、Mooovi 施設では、プレイリーダーが常駐して子供の安全確保のため並びに遊具利用の際の対応などしており好評である。実際に施設への巡回で当日暑い日でしたが子供たちが楽しそうに遊んでいる光景を見ることが出来た。レース場には、飲食施設はとても充実しているように散見された。本市のボートレース場パーク化事業の参考になる調査でした。本市においても市民に広く利用されるような工夫が必要であると感じられた。

【周南市議会公明党】会派視察報告書

報告者 小池 一正

富士宮市役所 第2委員会室 7月28日(金) 9時30分～11時00分

【対応説明者】 富士宮市保健福祉部 福祉企画課 主幹兼地域包括ケア

推進係長 ■■■■■(社会福祉士)

福祉企画課 地域包括支援センター保健師 ■■■■■

【調査事項】 認知症対策の取組について

【所感】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指す、認知症の人や家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」を車の両輪として施策の推進を実感した。富士宮市は、19年以前からこの事業支援を丁寧に積み上げ、大切にしている項目の説明を受けた。①個別支援の充実では、一人ひとりのストーリーを大切に本人の暮らす姿を通して周りの住民にも希望を与えている事例等の紹介

②認知症の人やその家族の視点の重視では、多様な認知症カフェ(例を挙げれば、ロバちゃんカフェ in イオンモール、グランドゴルフカフェ)等が自然に集まれる居場所として現在21ヶ所までに設置。地域で誰でも参加可能で認知症に関わる本人・キャラバンメイト、家族会や介護経験者、福祉事務所等が運営の中心となっている。参加費用は、基本的には無料。啓発チラシ等は、市の予算でサポート。自分のペースで参

加され、無理をしない交流の場となっている。先ず③住民主体の活動支援で運営していることに驚いた。また認知症サポーターの育成・ステップアップ講座については、令和4年講座が5回開催され、キャラバンメイト従事数200人の内訳は、地域の一般住民116人、専門職84人が、養成講座の講師を務め、カフェの運営にも活躍されている所である。人材育成については、①キャラバンメイト養成を3年に1度、市独自で研修も開催。市民キャラバンメイトが、積極的に講座講師となるようにサポート支援している。そのためのマニュアルも整備し、成人用及びこどもサポーター用冊子も2020年4月に作成し準備されている。市民から協力者を募集する。毎月、認知症関連情報をキャラバンメイトと協力者宛にメールやFAXの送付している。キャラバンメイトに対しても、年2回のフォローアップ研修の開催とキャラバンメイト同士が、日頃から交流できる場づくりとフォローアップは継続して行われている。医療体制の整備と連携体制については、認知症医療研究会として地域専門職の構成で認知症サポート専門医10名と年2回の意見交換する機会を図っている。富士宮市認知症施策の一つ一つの活動は、地道にコツコツ積み上げてこられた成果であることを学んだ。行政の一貫してきた、認知症本人とその家族へのかかわり方により、地域住民もその思いの同様な理解が広がり、またこどもから大人まで広い世代に向けての啓発により機運の醸成が確実につながっていると感じる。本市の認知症対策の課題、施策・取組の方向性については、このたび学んだ、大切にする視点を捉えて議会に要望、提案したい。

7月26日 視察先 兵庫県丹波市役所

〒669-3692 兵庫県丹波市氷上町成松字甲賀1番地 電話番号：0795-82-1001（代表）

住みたくなる 帰りたいくなるパッケージの概要について

ライフステージに合わせ創設した以下の4つの奨励策の詳細について尋ねたい。

- 若者定住奨励金 移住・定住するなら丹波市で
- ハッピーバース手当 出産・子育てするなら丹波市で
- ふるさと就職奨励金 就職するなら丹波市で
- 福祉人材確保支援補助金
 - ▶福祉人材就職奨励金
 - ▶福祉人材継続奨励金
 - ▶福祉資格取得補助金
 - ▶引越費用補助金

○各事業の予算規模

○パッケージとしての施策を打つに至った経緯と庁内の各部署との連携については。

○各事業実施後の経過とその効果と課題について。

7月27日 視察先 常滑市役所 〒479-8610 愛知県常滑市飛香台3丁目3番地の5

ボートレースとこなめ 〒479-0837 愛知県常滑市新開町4丁目111

ボートギッズパークモービィ 〒479-0837 愛知県常滑市新開町4丁目111

○施設内に子供の遊び場の設置する目的は。

○ボートギッズパークモービィ施設の建設総事業費と現在の施設の維持管理について

○施設の設置に関する市民・利用者の反響は。

7月28日 視察先 静岡県富士宮市役所 〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地

認知症対策への様々な取り組みについて

○富士宮市の認知症カフェ〜知る・出会いの場として様々なカフェが市内に多く点在している。持続的な社会資源になっている誕生のきっかけ・エピソードや経緯について。

▶認知症の人たちがやりたいことを実現できる『居場所』づくりの取組について。

○「同じ地域に住んでいる人が認知症になったら、どうすればいいか」という深刻な課題に向かい。行政と住民が一緒になって考える社会形成のヒントは。また市民に自分事として考えを向けられている。どのように周知していかれたのか。

○人材育成について

現在、市全体の中で、認知症サポーターの活躍する支援場所での取組事例は。

人材育成の推移は。

養成講座の主な内容は。工夫していることはあるか。

取得しているサポーターのフォローアップ教育はどのように取り組まれているか。